

フューチャーデザインプログラム

第2期ビジョンプレゼン 受講生が未来の目標語る



未来への目標などをプレゼンする受講生

キャリア形成支援講座「フューチャーデザイン」プログラム(FDP)第2期の締めくくりとなるビジョンプレゼンが12月17日、神田キャンパスで開かれた。

FDPは2021年度に始まった全学対象の講座で、2期目の今年度は8カ月にわたって開講。講師に人材開発コンサルタンの平間裕哉さんを迎え、「社会理解」「未来予見」「仲間づくり」の三つをテーマに講義とグループワークを行ってきた。

ビジョンプレゼンは「FDP 2030年に掲げた私が見つけた未来」と題し、活動の振り返りや学んだこと、未来への目標など、受講生10人が対面と映像でプレゼンテーションした。

岩澤楓さん(法2)は仲間づくりで悩みFDPを受講。受講生有志で鳳祭に参加することし、リーダーを務めた。「講義の中で『どうせ無理をなくそう』という言葉が印象的だった。FDPを通じて、どうせ無理とわかって、仲間と出会い活動することができた。未来に向かって、このことを忘れず行動していきたい」と語った。

ほかの課外活動でチーム活動について悩んだという田宮小鈴さん(商1)は、FDPで議論を重ねることで、チームでは役割分担が大事だと気づいた。チームの中で自分の役割をまっとうし、その上でメンバーを生かす方法を考えていくことが重要だ」とまとめた。

講師の平間さんは「FDPを通して、これから大学生活や社会人になってから必要となるコミュニケーションスキルを高めることができた」と受講生をねぎらった。

「専修リーダーシップ開発プログラム」第10期蒼翼の学舎の最終報告会が12月22日、生田キャンパスで開かれた。

同プログラムは、経営学部の正課科目(全学公開科目)とキャリアデザインセンターの課外講座によるハイブリッドプログラムとして開講。講座と学内外でのチーム活動を通じて、組織や社会をけん引するために必要なりーダーシップの習得を目指す。

今年度は34人の受講生が6チームに分かれ、企業や市民団体から提示されたミッションに挑んだ。報告会では、約9カ月におよぶ活動の様子や、そのなかで見つけた「リーダーシップエッセンス」を発表した。

プロジェクトに参加したゼミ生と石崎教授(右端)

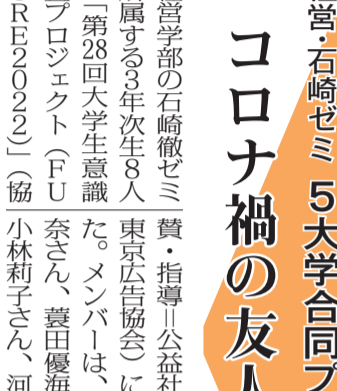


発表会で報告する関口さん

発表会で報告する関口さん

「大学生の友人関係に関する意識調査に取り組んだ」と笑顔で話した。

9か月間にわたって奮闘した10期生



「専修リーダーシップ開発プログラム」第10期蒼翼の学舎の最終報告会が12月22日、生田キャンパスで開かれた。

同プログラムは、経営学部の正課科目(全学公開科目)とキャリアデザインセンターの課外講座によるハイブリッドプログラムとして開講。講座と学内外でのチーム活動を通じて、組織や社会をけん引するために必要なりーダーシップの習得を目指す。

今年度は34人の受講生が6チームに分かれ、企業や市民団体から提示されたミッションに挑んだ。報告会では、約9カ月におよぶ活動の様子や、そのなかで見つけた「リーダーシップエッセンス」を発表した。

専修リーダーシップ開発プログラム—第10期蒼翼の学舎



「専修リーダーシップ開発プログラム」第10期蒼翼の学舎の最終報告会が12月22日、生田キャンパスで開かれた。

同プログラムは、経営学部の正課科目(全学公開科目)とキャリアデザインセンターの課外講座によるハイブリッドプログラムとして開講。講座と学内外でのチーム活動を通じて、組織や社会をけん引するために必要なりーダーシップの習得を目指す。

今年度は34人の受講生が6チームに分かれ、企業や市民団体から提示されたミッションに挑んだ。報告会では、約9カ月におよぶ活動の様子や、そのなかで見つけた「リーダーシップエッセンス」を発表した。

活動成果を報告



往診サービスアプリの認知拡大に取り組んだのは「ストーリー」チーム。子育てママ応援イベントにブースを出展し、600人以上の来場者を集めた。報告会では、チーム活動で協働するために「他者視点と自己視点」「組織の利益と個人の利益」のバランスが重要との考察を示した。

「ジェイ・ブロード」チームは、障がい者採用支援事業を手がける部署で、障がいを持つ就活生が面接で自身の状況を伝える際に役立つチェックシートを考案、受け入れ先が開く就職イベントで本格的に導入されることが決まった。

報告会に参加したサニワンステップ株式会社の田村寛之さんは「プログラム期間中に壁にぶつかる経験もしたと思うが、社会に出て困難に直面した際に乗り越える糧にしてほしい」とエールを送った。

経営・石崎ゼミ5大学合同プロジェクトに参加 コロナ禍の友人関係を調査

経営学部の石崎徹ゼミ(賛・指導)公益社団法人に所属する3年次生8人、東京広告協会)に参加し、「第28回大学生意識調査」メンバーは、関口大、調査プロジェクト(FUTURE2022)(協)小利子さん、河合千広さん、市川陸斗さん、小島美咲さん、竹上湧大さん、南部駿さんの8人。

FUTUREは、広告やマーケティングを学ぶ学生有志によるプロジェクトで、今年度は大学(専修、青山学院、駒澤、千葉商科、江戸川)の学生が、関係性を深めていくといったマーケティング的なプロセスを踏んでいるとの考察を示した。

関口さんは「担うタスクも責任も大きかったが、これまでにない達成感を得ることができた」と充実の表情。豊田さんは「広告への興味が一層増し、協力して目標に向かうことの楽しさを実感した」と笑顔で話した。

留学生と日本人学生が交流を深めた歓迎会



6カ国42人参加

日本語学習を希望するドイツ、フランス、カナダ、オーストラリアの外国人を対象とした「冬ダ、オーストラリアの学期日本語・日本事情」プロジェクトが1月10日、始まった。韓国、日本を介して、楽しく過ごしてほしい」と歓迎した。

続いて国際交流会館で開催された歓迎会では、留学生と日本人学生がゲームを通じて交流した。日本語初級の留学生のためにジェスチャーで楽しめるゲームや日本文化の一つであるすごろくを用いたゲームを行い、日韓英の3カ国語が飛び交う交流となった。

本学はウクライナ支援として、すでに日本に避難している方で日本語の学習希望者を対象に、12日には生田キャンパスで開講式が行われた。奥村経世国際交流センター長が英語と日本語を

冬期JLCCプログラムスタート

冬期JLCCプログラムスタート

「日本語を学び、日本やほかの国の友達をたくさん作って、楽しく過ごしてほしい」と歓迎した。

続いて国際交流会館で開催された歓迎会では、留学生と日本人学生がゲームを通じて交流した。日本語初級の留学生のためにジェスチャーで楽しめるゲームや日本文化の一つであるすごろくを用いたゲームを行い、日韓英の3カ国語が飛び交う交流となった。

本学はウクライナ支援として、すでに日本に避難している方で日本語の学習希望者を対象に、12日には生田キャンパスで開講式が行われた。奥村経世国際交流センター長が英語と日本語を

経済・学外特別研修発表会

充実の就業体験振り返る



経済学部の専門科目「学外特別研修」の発表会が12月3日、生田キャンパスで開かれた。

受講した飯塚亮介さん、大平康晴さん、最上悠都さん、小関駿太郎さん(いずれも3年次)、田中理久さん(2年次)の5人が研修先の経験や成果を報告した。

同科目は、外部講師を招いての座学の後、夏期休暇中に企業や非営利組織でインターンを行う。社会人としての実習体験を通じて、社会を見る目や能動的・積極的に取り組む姿勢などを身につけることを目的としている。

飯塚さんと大平さんは公益財団法人川崎市産業振興財団、最上さんは公益社団法人東京自治研究センターで、普段なじみのない非営利組織の現場を経験した。小関さんと田中さんはそれぞれ民間企業で研修を受けた。

教員や研修先の担当者を前に堂々と報告を行った5人の表情には、研修の充実ぶりと成長の手応えがうかがえた。

23年度長期交換留学に5人



長期交換留学生と奥村経世国際交流センター長(後列左から2人目) = 1月17日

2023年度長期交換留学プログラム(第1期)の留学生が決まった。留学先と派遣期間、氏名、学部学年は次の通り。(敬称略)

- ワイカト大学(ニュージーランド、1月~11月)
- 上海大学(中国、3月~24年1月)
- 菊池来美(国コミュ3)
- マルティン・ルター大

2023年度長期交換留学プログラム(第1期)の留学生が決まった。留学先と派遣期間、氏名、学部学年は次の通り。(敬称略)

- 秋山歩純(経済2)
- 檀国大学(韓国、2月~12月)
- 白井菜陽(文3)
- 上海大学(中国、3月~24年1月)
- 菊池来美(国コミュ3)